



【第142号 目次】

- ・教育コラム「磨」
- ・まなnetの玉手箱
- ・教科研究センター講座の報告
- ・お知らせ
- ・速報



磨

小中学校マネジメント研修 ～発展期教諭による校内研修で、学校組織力を向上させる～

管理職・マネジメント研修担当

高知県教育センターでは、平成16年度より管理職等育成プログラムのなかで、平成24年度からは若年教員育成プログラムにおいて、学校組織マネジメントに関わる研修を実施し、ステージに応じた組織マネジメント力を育成することに取り組んできました。

しかしながら、第2期高知県教育振興基本計画（平成31年3月）では、各校において児童生徒に育成すべき力が明確化・共有化されていない状況があること、育成すべき力を実現するための取組も教員の個業に任されることが多く、教職員が組織的・協働的に取り組むことができていない実態があることが課題として挙げられました。

そこで当センターでは、それらの課題解決に向けて、中堅教諭等資質向上研修受講後、研修の機会が少なくなった発展期教諭（教職経験20年以上）等を対象に、学校の組織力の向上を目指した「小中学校マネジメント研修」を実施することにしました。

「小中学校マネジメント研修」では、発展期教諭が中心となり、他の教員を巻き込みながら、自校の課題解決に向けた校内研修を組織的に進めていきます。研修を進める際には、自校の課題、目指す姿を明確にし、NITS（独立行政法人教職員支援機構）のオンライン講座「校内研修シリーズ」の動画から、自校の課題解決に関するものを選択・視聴し、動画を効果的に活用して、校内研修を企画・運営します。自校の課題解決に向けてPDCAサイクルを回しながら実践し、取組の成果と課題を報告書にまとめます。

令和2年度は377人、令和3年度は270人の先生方が受講しました。研修後の校長に対する質問「校内研修の企画・運営は、発展期の教諭を中心に管理職の支援のもと組織的に取り組めたか」の回答は、令和2年、3年ともに平均3.7（4件法）であり、本研修が学校の組織力を向上させるものとなっていることがうかがえます。

受講者及び校長による感想は次の通りです。

発展期教諭の感想

- ・NITSの動画は最新の教育課題に関するものについて多数掲載されているため、課題に適した動画を選択できるのが良かった。
- ・課題を選択し、管理職や同僚と連携しながら研修を企画・運営することで、学校の課題を自分事と捉えられるようになり、自身の役割に対する意識が高まった。
- ・自校の課題に対して、どのような校内研修を実施することが有効なのかを考えて研修することができたことは、自身の成長につながった。



表：本研修で育成する能力（高知県教員育成指標による）

能力	項目	発展期（20年～）
F 協働性・ 同僚性の 構築力	④教職員の連携・協働	学年や分掌等の要となり、チーム対応等の充実に向けてリーダーシップを発揮することができる。
G 組織 貢献力	④学校組織の理解・運営	組織の特性や教職員の強み、弱みを見取り、それらを生かした機能的な組織運営に取り組むことができる。
	④業務遂行・進捗管理	校務分掌等の業務の効率的・効果的な遂行に向け、積極的に工夫改善を回しながらPDCAサイクルを回すとともに、教職員に対して適切な指導・助言をすることができる。
	④人材育成	自校の諸課題について、具体的な対応策を提案するとともに、教職員に対して適切な指導・助言をすることができる。

- ・校内研修後、職員室では、研修の内容について議論し合う場面が多くあり、意味のある研修となった。今後も教員の悩みを支援できるような研修を企画していきたい。

校長の感想

- ・発展期教諭が得意分野を生かし、経験を基にしながら研修を企画・運営する姿は、中堅教諭や若年教諭にとっても、将来への見通しがもて、学校全体にとって意義深い研修となった。
- ・どのような研修が必要なのかを自校の課題から見極め、提案、実践、検証という流れを発展期教諭が経験するという事は、本校の組織マネジメントに参画するという視点からも大変重要である。人材育成に関しての自覚と責任が高まったようだ。

このように発展期教諭が自校にあった課題を選択したり、管理職や同僚と連携しながら研修を企画・運営したりすることで、学校の課題を自分事と捉えられるようになり、発展期の教諭としての役割に対する意識が高まってきています。

本研修を通して、経験豊富で力のある発展期の先生方が、学校組織の中でさらにリーダーシップを発揮するとともに、学校組織がより活性化されることを期待します。



まな net の玉手箱

英語はおもしろい

西部教科研究センター指導アドバイザー 宮下由紀

私が中学生だった頃、「サウンドオブミュージック」というミュージカル映画を見ました。主人公のマリアは自然を愛し、感受性豊かで好奇心旺盛な若い修道女。ある日、修道院長からシングルファーザーであるトラップ大佐の子どもたちの家庭教師に行くように言われ赴くと、軍隊式に育てられた子どもたちがいてマリアの活躍が始まります。マリアは歌を教えようとして英語版の「ドレミの歌」を歌います。

Do - re - me - fa - so - la - ti

ド、ア ディア、 ア フィメイル ディア

Doe, a deer, a female deer 「ド（雌ジカ）は、シカ、メスのシカ」

レイ、ア ドロップオブ ゴールデン サン

Ray, a drop of golden sun 「レ（光線）は金色の太陽のしずく」

ミー、ア ネイム アイコール マイセルフ

Me, a name I call myself 「ミ（わたし）は、自分と呼ぶときの名前」

ファ、ア ロングロング ウェイトゥ ラン

Far, a long long way to run 「ファ（遠い）は、走るのに長い道のり」

ソウ、ア ニードゥル プーリン スレッド

Sew, a needle pulling thread 「ソ（縫う）は針で糸をひくこと」

ラ、ア ノートゥ フォロウ ソウ

La, a note to follow Sew 「ラ（ラ）は（ソ）につづく音」

ティ、ア ドリンクウィズ ジャムエンブレッド

Tea, a drink with jam & bread 「シ（お茶）はジャムパンを食べる時に飲むもの」

ザッウィル プリンガス バックトゥッドゥ

That will bring us back to Do 「そして私たちを（ド）に戻す」

出典『効率的』に勉強して英語を使いこなす英会話講師の物語 一部修正

<https://bellthrough.com/should/doremi>



中学生の私は「ドはドーナツのド」と思い込んでいて「ドは雌ジカのド？」「レが光線？」「ソが縫う？」「ノートが音符？」「シがtea?」すべてがおもしろく英語に引き込まれていきました。日本語と英語の違い、その後ろにある文化の違い、英語はおもしろいという自己暗示をかけて英語を楽しんでみてください。

●○○教科研究センター講座の報告●○○

教科研究センターでは基礎講座と特別講座を実施しています。今回は特別講座Ⅰ・Ⅳと基礎講座Ⅲについて報告します。

◇◆◇特別講座Ⅰ・Ⅳ◇◆◇

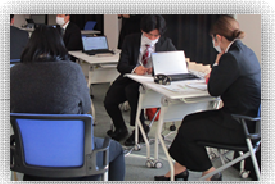
この講座は郷土資料を活用した講座で、高知県立高知城歴史博物館と共催で実施しています。1回目は10月15日に「土佐の参勤交代」について、横山 和弘副館長から経路や日数・人数・費用など興味深い内容について講義がありました。参勤交代での一日の移動距離や交通費より江戸での生活費の負担が大きかったこと、土佐藩からおおよそ何人が江戸屋敷にいたのか等々、数字に関する興味深い内容や、参勤交代の帰路で起こったハプニングなど、郷土資料から読み取れるお話でした。2回目は山内容堂の企画展開催期間中である11月26日に「山内容堂と幕末維新史」について、藤田 雅子資料学芸課長から「山内容堂の生涯と人となり」「幕末史と容堂」「明治維新と容堂」の講義がありました。酒好きで知られる山内容堂の人物像や46歳の生涯を閉じるまでの出来事について聴くことができました。講義を受けて企画展を見学すると、緋羅紗地数珠文陣羽織は容堂らしさが現れた逸品であると感じました。また、容堂の大親友である松平春嶽からの最後の手紙の内容もしみじみと伝わってきました。このように、特別講座では、教科書では分からない郷土資料から読み取れる歴史の事実に触れることができます。



◇◆◇基礎講座Ⅲ◇◆◇

12月10日に基礎講座Ⅲ「特別支援教育の視点に立つ授業づくり」を実施し、「インクルーシブ教育システム」「ユニバーサルデザイン」「合理的配慮」をKey Wordとして講義・演習を行いました。校種を問わず、教職員8名、学生4名の参加がありました。通常学級には様々な子どもが在籍しており、多様化している子どもたちに対応した教育が求められています。特別支援教育は特別支援学校や特別支援学級だけでなく、すべての学校において実施されるもので、障害の特性等に関する理解と指導方法を工夫する力や合理的配慮に対する理解など、特別支援教育に関わる専門性はすべての教師に求められています。そのため、講義ではまず合理的配慮や合理的配慮の実践例としてインクルDB（インクルーシブ教育システム構築支援データベース）などを紹介し、受講者それぞれが知りたい実践事例を調べていました。

現在、通常学級には、特別な支援や配慮を必要としている児童生徒が数名程度在籍していると言われています。そこで、通常学級に在籍している可能性のある発達障害の子どもについて理解を深めるために、発達障害の種類や特性の説明がありました。子どもによっては複数の障害が重なって現れることがあるため一人一人の状態が異なり、支援の方法も同じではありません。困っている子ども達の支援の方法を考えるために、受講者に学びにくさの疑似体験をしてもらい、体験をとおしてどのような気持ちになったのか、どのような支援が考えられるのかグループで共有しました。注目・



注視に関する疑似体験では、支援の方法として、色を統一することや、子どもが見通しを持てるように順序を示したり、刺激になるものを取り除くこと、焦らすことなく時間や回数を増やすことであきらめずに取り組みさせるなどの意見が出ました。聞くことに関する疑似体験では、全体への指示と個別への指示に分けること、指示語を用いず具体的に指示をすること、聞き取りやすいように静かな環境づくりをすること、視覚支援を活用することなどの意見が出ました。最後に、すべての子どもたちが「分かる」「できる」ように工夫や

配慮がされたユニバーサルデザインに基づく授業についての説明がありました。

受講者のアンケート回答には「インクルDBを知ることができたことが大きな収穫である」「ユニバーサルデザインに基づく授業や環境の整備について理解できた」や「授業実践で身に付けたい視点と具体的な取組を理解することができた」など、研修での学びを自分の実践に生かそうとする感想がありました。

教具の貸出しについて

教科研究センターでは、アーテックロボ、コード・A・ピラー（本部のみ）やボッチャの貸出しを行っています。詳しくは、各教科研究センターにお問い合わせください。



速報



教科研究センター（本部・東部・中部・西部）

令和4年12月の利用者状況 **187名**

◆◇ご利用ありがとうございました◆◇



《 教育センターの四季：

春野高校の生徒の皆さん作シクラメン。立派な葉と花です。》

教科研究センター（本部）	高知県教育センター2階（高知市大津乙181）	TEL/FAX 088-866-3903
東部教科研究センター	安芸総合庁舎4階（安芸市矢ノ丸1-4-36）	TEL/FAX 0887-34-8051
中部教科研究センター	中部教育事務所1階（吾川郡いの町枝川2410-7）	TEL/FAX 088-893-6597
西部教科研究センター	幡多総合庁舎3階（四万十市中村山手通19）	TEL/FAX 0880-35-6251

教科研究センターホームページアドレス <https://www.kochinet.ed.jp/studycenter>